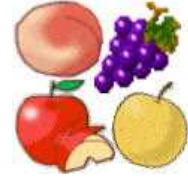




平成29年度 果樹情報 第1号

(平成29年4月4日)

果樹類の開花予測とももせん孔細菌病対策
福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (3月下旬：果樹研究所)

平均気温は3月5半旬が4.8℃で平年より1.2℃低く、6半旬が5.3℃で1.4℃低く経過しました。

3月下旬の降水量は32.5mmで、平年の117%と多くなりました。

2 発育状況 (果樹研究所)

- (1) ももの発芽は、「あかつき」が3月29日で平年より4日遅く、「ゆうぞら」が3月29日で平年より3日遅くなりました。
- (2) なしの発芽は、「豊水」が4月3日で平年より3日遅くなりました。「幸水」は近日中に発芽する見込みです。
- (3) りんごの発芽は、「つがる」が4月2日で平年より7日遅く、「ふじ」が4月2日で平年より5日遅くなりました。

表1 発芽・展葉状況

	発芽			展葉		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
あかつき	3月29日	3月25日	3月19日	—	—	—
ゆうぞら	3月29日	3月26日	3月20日	—	—	—
幸水	未	4月2日	3月28日	未	4月15日	4月6日
豊水	4月3日	3月31日	3月24日	未	4月11日	4月3日
つがる	4月2日	3月26日	3月21日	未	4月10日	4月2日
ふじ	4月2日	3月28日	3月21日	未	4月8日	3月30日

注) 平年は1986～2015年の平均値。

3 開花予測

今後の気温が平年並に経過した場合、もも「あかつき」の開花始めは4月18日で平年より4日遅く、なし「幸水」の開花始めは4月24日で平年より3日遅く、りんご「ふじ」の開花始めは4月29日で3日遅いと予測されます。

なお、この時期の生育は直前の気温の影響が大きいため、今後の気温の推移により大きく変動する可能性があるので注意してください。

表2 開花予測日 [予測方法：発育速度 (DVR) モデルによる発育予測]

	開花始め		今後の気温経過と開花予測日		
	昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い
あかつき	4月5日	4月14日	4月18日	4月15日	4月21日
幸水	4月13日	4月21日	4月24日	4月20日	4月28日
ふじ	4月18日	4月26日	4月29日	4月24日	5月5日

注) 開花始めの平年は1986～2015年の平均値。

4 栽培上の留意点

(1) 防霜対策

生育が進むにつれて耐凍性が低下し凍霜害の危険性が高くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。生育は平年に比べ3～7日程度遅れています。また、1か月予報(4/1～4/30)によれば、今後気温が平年並または高く推移する確率が高いと予想されているため、発育予測(表2)を考慮して、生育ステージごとの安全限界温を下回る温度に遭遇するおそれがある場合には速やかに防霜対策を実施しましょう。

事前対策としては、防霜資材の準備を徹底するとともに、地温の上昇を図るため下草は4月上旬以降をめぐりに5cm程度に刈り込みましょう。また、空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分を確保しましょう(乾燥条件は気温の低下が著しいため)。降水量が少なく、乾燥状態が続く場合には特に注意してください。

なお、降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉を徹底し結実確保を図りましょう。

(2) 結実確保対策

開花期は直前の気温に大きく影響されるため、今後の気温の推移に注意して、訪花昆虫の導入、共同開やく所の開設、人工受粉のための労力確保などを計画的に行いましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病害

ア りんご腐らん病

伝染源となる枝腐らん、胴腐らんの発病部位は確実に削り取るかせん除し、塗布剤を塗りましょう。なお、伐採した被害枝幹や削り取った病患部は園内に放置せず適切に処分するほか、展葉初期の防除も徹底しましょう。

イ りんご黒星病

前年に黒星病の発生がみられた場合は、展葉初期にの防除を徹底しましょう。

ウ ももせん孔細菌病

4月になり気温が上昇してくると、枝の皮部組織内で潜伏越冬していた病原細菌は繁殖を始め、春型枝病斑を生じます。春型枝病斑で繁殖した病原細菌は降雨があると雨滴に混じって分散し伝染を続けるので、春型枝病斑は見つけしだいせん除しましょう。

前年秋期(特に9月中～下旬)の降雨が多い場合には、翌春の春型枝病斑の発生が多くなるので、十分注意しましょう。

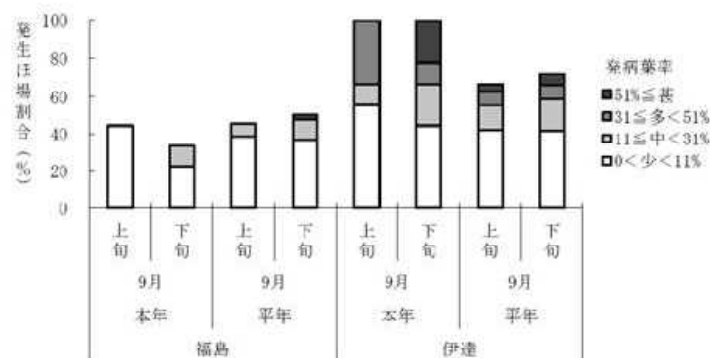


図1 新梢葉におけるせん孔細菌病の発生状況(平成28年9月病虫害防除所調査)

表3 平成28年9月中～下旬の降水量

アメダス地点	福島	梁川
平成28年	214.0mm	174.5mm
平年値	120.4mm	118.1mm
平年比	178%	148%

ももせん孔細菌病の春型枝病斑を確認するポイント

園内をこまめに巡回し、1年枝皮部の黒変や新梢葉の生育不良を目安に、発病が疑われる枝は見つけしだい、せん除してください。

春型枝病斑をせん除する場合、健全部を含めてせん除し、罹病部位が樹上に残らないように注意しましょう。

なお、せん除した枝等は園外に持ち出し、適切に処分してください。



エ なし黒星病

被害落葉や罹病芽（りん片）が伝染源になり、開花前から胞子を飛散するため、発芽1週間後頃の防除を徹底し、初期感染の防止に努めましょう。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

今後の気温が平年並に経過した場合、越冬世代成虫の誘殺盛期は4月25日頃と予測されるため、防除適期は4月6半旬～5月1半旬と推定されます。なお、今後の気象経過により防除適期も変動するため、落花10日後頃を目安に防除を実施しましょう。

イ リンゴハダニ

今後の気温が平年並に経過した場合、リンゴハダニのふ化盛期は4月29日頃と予想されます。越冬卵密度の高い園では、落花後以降の発生密度に注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭以上）に達したら殺ダニ剤を散布しましょう。

ウ リンゴモンハマキ（もも、なし）

今後の気温が平年並に経過した場合、越冬世代成虫の誘殺盛期は5月23日頃と予測されます。昨年、本種の発生が多かった園では、越冬世代の密度低下に努めましょう。本種は枯れ葉を枝等に貼り付けた中にマユを作り、若齢幼虫態で越冬するので（図2、図3）、摘らい作業時に越冬マユを見つけたら除去しましょう。越冬量の多いもも園では、開花10日前頃に必ず防除を実施しましょう。なお、有機リン剤等の訪花昆虫に対して影響がある剤を使用する場合は散布時期に注意してください。

表4 果樹研究所における主要害虫の誘殺盛期等の予測

	モモハモグリガ	リンゴハダニ	リンゴモンハマキ
今後の気温予測	越冬世代 誘殺盛期	越冬卵 ふ化盛期	越冬世代 誘殺盛期
2℃高い	4月20日	4月23日	5月14日
平年並	4月25日	4月29日	5月23日
2℃低い	5月1日	5月6日	6月3日

起算日：3月1日（演算方法は三角法・平成29年3月31日現在）



図2 リンゴコカクモンハマキ越冬場所



図3 リンゴコカクモンハマキ越冬虫

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>